

会 議 録

会議の名称	清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議（第1回）
開催日時	令和6年5月15日（水） 午前10時から正午まで
開催場所	清須市役所北館2階 第1・第2会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 (1) 清須市人口ビジョンの改訂案について (2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025の素案について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料1-1 清須市人口ビジョン（令和6年改訂版）（案）の修正点について 資料1-2 清須市人口ビジョン（令和6年度改訂版）（案） 資料2 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略2025（素案） 参考資料 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議開催要領・公開等
公開・非公開の別（非公開の場合はその理由）	公開
傍聴人の数（公開した場合）	1人
出席委員	水谷（香）委員、名倉委員、石田委員（代理）、小川委員、山田委員、水谷（幸）委員
欠席委員	石嶋委員、高山委員
出席者（市）	河口企画部長
事務局	〔企画部企画政策課〕 林企画部次長兼企画政策課長、神野課長補佐兼企画政策係長、秋山副主幹、岩田主任主査 〔株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所〕 江口支社長補佐
会議録署名委員	水谷（幸）委員、名倉委員
1 開会 （林企画部次長兼企画政策課長） ただいまから、令和6年度第1回清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議を開会いたします。 会議の開催にあたりまして、はじめに、企画部長の河口よりごあいさつを申し上げます。	

2 あいさつ

(河口企画部長)

皆さまおはようございます。本日は大変お忙しい中、まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、委員の皆さま方におかれましては、日頃から市政各般にわたりご理解、ご協力いただいておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在、本市では、市の最上位計画である総合計画を昨年度と今年度の2か年かけて策定しており、これと一体的に、地方創生に軸足を置いたまち・ひと・しごと創生総合戦略の策定を進めています。この策定にあたっては、様々な場所で活躍されている委員の皆さまのお知恵を拝借していきたいということで、本会議の開催に至っています。

本市の近況をお伝えしますと、前回の会議で、本市の出生率は県下で1位、2位を維持し続けているとお伝えしましたが、その後、新たな統計データが発表されまして、合計特殊出生率においても、県下で1位になりました。

しかし、そんな本市でも、前途洋々というわけではありません。新聞等でも報道されていますが、「消滅可能性自治体」が発表されました。2020年から2050年間の30年間に、若年女性が半分以上減少する自治体を消滅可能性自治体といい、東三河や知多半島を中心に、愛知県では7市町村が該当しています。本市は該当しないのですが、これに合わせて「自立持続可能性自治体」も同時に発表されています。大府市、日進市など、県下で6市町が該当していますが、本市は該当していません。そのようなことも踏まえ、まち・ひと・しごと創生総合戦略の重要性を認識し、この会議を通じて、しっかりと未来を見据えた戦略を策定していきたいと思いますので、委員の皆さま方のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

(林企画部次長兼企画政策課長)

本日は、今年度に入って1回目の会議になりますので、委員名簿に沿って、委員のご紹介をさせていただきます。

【事務局より委員紹介】

(林企画部次長兼企画政策課長)

以上、8名の委員で構成する会議となります。本日は出席者が6名であり、過半数を超えていますので、会議が成立しておりますことを、あわせてご報告申し上げます。なお、本日の会議には、事務局側としまして、清須市第3次総合計画策定支援業務の受託事業者であります、株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所の方にも同席いただいております。

それでは、ここからは議事の進行を水谷座長にお願いします。

(水谷座長)

皆さま、本日もよろしくお願いいたします。本会議は、清須市の未来を考える非常に重要な会議だと認識しています。人口減少ということもありますが、社会がめまぐるしく変化している時代に入っているのです、どのようなビジョンを掲げるのか、どこを目指すのかを皆さまの知恵を拝借しながら考えていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議録署名委員の指名をさせていただきます。いつも名簿の順にお願いしておりますので、今回は、水谷幸一委員と名倉委員にお願いしたいと思います。

本日は、2つの議事があり、1つ目が、清須市人口ビジョンの改訂案について、2つ目が、清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 の素案となっています。本日は、特に2つ目、戦略の素案の検討になるべく時間を割けたらと考えておりますので、そのように進めていけたらと思います。

3 議事（1） 清須市人口ビジョンの改訂案について

（水谷座長）

それでは、議事（1）「清須市人口ビジョンの改訂案について」の説明を事務局からお願いします。

（岩田主任主査）

【資料1-1、資料1-2に基づき説明】

（水谷座長）

それでは、委員の皆さまからご質問やご意見をいただきたいと思います。

（石田委員（代理））

1つ目は、合計特殊出生率についてですが、人口ビジョンの10ページで合計特殊出生率が1.78と県内1位になったということでした。グラフを見ると、愛知県や全国平均が下がってきているなかで、清須市では右肩上がりを維持しており、素晴らしいと思います。増加傾向を維持できている要因はどのように分析されていますか。

2つ目は42ページ将来の人口展望のケース②、ケース③で、合計特殊出生率を2025年で1.78としているのは今の統計データが1.78であるからだと思うのですが、2030年に1.87としている根拠をどのように考えているのでしょうか。愛知県の人口ビジョンも改訂をしなければならず、国の人口ビジョンにあたる長期ビジョンが改訂されていないなかで、愛知県としても考え方を検討しています。県でもどこを目指すかを悩んでいるところであり、参考として根拠を教えていただけたらと思います。

（岩田主任主査）

1つ目の合計特殊出生率については、様々な要因があると思うので一概には難しい部分がありますが、まずひとつ言えることは、清須市としてこれまで着実に取り組んできた子育て施策の成果であると言えると思います。例えば、民間の認定こども園の誘致等を進め、保育児童の受け皿の確保を着実に進めてきました。現状、毎年4月1日時点での待機児童は0を維持し続けています。それ以外にも、こども医療費を18歳まで無償化したことや、学校の教室・体育館への空調設備の設置などによる、子どもが過ごす環境づくりにも力を入れてきました。そういったことの積み重ねであると言えます。

もうひとつの要因としては、清須市のそもそもの立地上の利点として、名古屋市に隣接しアクセスも非常によく、また、家賃や土地の価格の相場は名古屋市と比べて安いということで、若い世代が入ってきやすい環境ということも、このような結果になっているのではと思います。

2つ目の合計特殊出生率の2030年目標についてですが、前回の会議の時点では愛知県の人口ビジョンを参考にして、2030年の目標を1.80とさせていただいていました。これを、先ほどのお話になりますが、直近の統計で、清須市は非常によい結果が出たことを受けて、2030年の目標を見直ししています。

まず、前提として、人口を維持できる水準である2.07を達成しなければ、人口は減っていく一方になります。ですので、最終的に2040年にこの2.07を達成したいとした場合、現状が1.78で、2030年の時点でどの程度、達成していなければいけないのかを割り出した結果が1.87になります。順調に右肩上がりでも伸ばしていくと想定した場合に、2030年の時点では、1.87を達成していなければならないということで、1.87としています。

(水谷座長)

前回の会議をふまえて修正いただき、ありがとうございました。合計特殊出生率について、非常に頼もしい結果にもなっており、素晴らしいと思っています。42ページケース②、ケース③に掲げた合計特殊出生率2030年1.87とのことですが、1.87を実現している自治体はあるのでしょうか。

(岩田主任主査)

1.87を超えている自治体はあります。2.07を超えている自治体もあるはずですが、具体的にどれくらいあるかはこの場では分かりかねます。ただ、そもそも愛知県としても出生率を含む人口の問題は、他の地方の地域と比べてまだ良いはずで、その愛知県の中においても、清須市1.78で1位となっていますので、1.87を超えている自治体は非常にまれだと思います。

(水谷座長)

全国で見てそういった自治体があれば、その取組も参考になると思い質問しました。ありがとうございました。

(名倉委員)

19ページに清洲城の来場者の推移が掲載されており、コロナが明けて以降、年々入場者数が増えてきています。ふるさとのやかたのリニューアルや、清洲城周辺でのイルミネーションイベントの実施など、様々な取組を行った結果、来場者が増えたのだと思います。これも市の取組の成果であり、なかなかよい結果だと感じています。

(水谷座長)

これも市の頑張りが数字になって表れたということですね。よい傾向がみられていると思います。

(山田委員)

人口ビジョンで気になったのが、人口を増やすにあたって清須市で受け入れられる土地などがあるのでしょうか。その場所に対してインフラ整備はされているのでしょうか。

(水谷座長)

山田委員より「人口は増加を目指すけれども、実際に受け入れることができるのか」とのご意見でした。事務局より回答をお願いします。

(岩田主任主査)

現在推進している駅周辺の土地区画整理事業や、現在事業認可に向けて動いている、今後控えている土地区画整理事業の予定もありまして、人口が増えた時の受け皿は、こういった事業を含めて確保することができると思います。

(水谷委員)

12 ページ、13 ページに転入者が増えているとありますが、清須市が行っている取組、働いたり子育てすることがしやすい環境になっているということを、対外的にアピールはできているのでしょうか。

(岩田主任主査)

今まさに、市としましてもそこに力を入れていくべきだという認識を持っています。これは後ほど、総合戦略の資料の中にも出てきますが、子育てしやすいまちづくりに力を入れてくという姿勢を市外にも向けてPRしていくことで、「清須市は子育てがしやすいまちだ」と認識してもらい、若い世代に選ばれるようなまちにしていきたいということを考えています。

(水谷（幸）委員)

清須市では、労働組合がある会社が 20%以下と少ないです。それをみても、東海豪雨以降は清須市から工場や企業が減っています。東海豪雨以降の企業誘致はどのような状況でしょうか。

(岩田主任主査)

地域の賑わい創出や自主財源の確保の手段としても、企業誘致・企業立地を進めていくべきと考えています。市としましても、企業誘致に力を入れるということで、令和2年に新たに企業誘致課という部署を設置しています。企業立地を検討される企業に対する支援制度もいくつかたちになってきたところですので、そういった制度も活用した、更なる企業立地の推進に向けて取り組んでいるところです。

(小川委員)

36 ページにある市への期待というアンケート結果についてです。2つ目の議題にも関連してくると思いますが、突然急に商業、娯楽施設を充実させることは難しいと思います。現在、土地区画整理を進め、教育の充実、環境の充実も図っていると聞いているので、今持っている「清須市の特色」というものを明確にし

て、それを発信することが必要だと思います。清須市がどんな市なのかがはっきりせず、ぼやけてしまっている印象があります。

(水谷座長)

幼い頃から「清須市ってこんなまち」と思っているとよいですね。

皆さまご意見ありがとうございました。

それでは、人口ビジョンの内容については事務局の修正案の通りとし、公表していくということで、よろしくお願いします。では、2つ目の議題へ移ります。

3 議事(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 の素案について

(水谷座長)

それでは、議事(2)「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2025 の素案について」の説明を事務局からお願いします。

(岩田主任主査)

【資料②に基づき説明】

(水谷座長)

先ほどの人口ビジョンがベースにあったうえで、この人口に関する問題に対してどのように取り組んでいくのかという総合戦略について、ご説明いただきました。

特に、数値の目標値、K P I などについて議論していきたいのですが、委員の皆さまからもお知恵をお願いします。

なお、本日ご欠席の石嶋委員から事前にご意見をいただいています。1つ目は「目標値が示されている点は素晴らしいと思う一方で、目標値が5年後であり、中間で進捗を図るためには、毎年度目標の設定が必要だと考えられます。5年後だけではなく、毎年目標値を設定したほうがよいのでは」とのことです。

2つ目は「目標は何を基に設定されているのかももう少しわかりやすく示した方がよいのでは。例えば、20代から40代の子育て支援に対する満足度は2023年の基準値がから増加としています。これは増加であれば、ありがたい姿の実現になるのかどうかはわかりづらいと感じました」とのことです。

この件について、まず委員の皆さまからご意見をいただけるとありがたいのですが、皆さまいかがでしょうか。どのような状態が望ましいと考えるか、具体的な数値を示したほうがよいのか。企業などでは具体的な数値目標を掲げることが多いと思いますが、そこには何かしらの根拠や目標があるのではと思うのですが、いかがでしょうか。

(山田委員)

設定しにくいかもしれませんが、あればあったほうがよいと思います。根拠が分かりやすいものがあればそのほうがよいと思いますが、難しいものもあるかと思しますので、そういったものは、単に今より、より良い状態を目指すという考え方も分からなくはないです。

(水谷座長)

50%になればよいのか、それとも80%を目指すのか、100%を目指すと言い切ってしまうのか。いろいろな考え方はあると思います。

(水谷(幸)委員)

目標値が基準値より増加ということは、今の数値より増やすとのことですが、それは難しいと思います。「あくまでも目標」というのがあります。5年後に向けての目標なので、「目標値が基準値より増加」だけでは市としてどのような方向に向かっていきたいのかがぼけてしまいます。

(水谷座長)

確かにそうですね。これについてご意見はありませんか。確かに難しいと思うのですが、総合計画を考える審議会に聞いてみるのもよいかもしれません。市として目指すと掲げた根拠を問われたときに、あやふやな回答になってしまうので、「市民が望む満足度」だと言え、立っていられる気がします。事務局はどのように考えていますか。

(岩田主任主査)

この戦略の素案の作成にあたって、数値目標やKPIはなるべく具体的に入れることができるものは入れたつもりです。おっしゃるように、アンケート調査からみる満足度は、どの程度になっていけば、その目標の達成に資することができているかという判断は難しい部分ではあります。ひとつの考え方として、「現状より満足していると思ってくれる市民を増やしていきたい」という視点で、増加をさせていくことを目標としています。

石嶋委員の1つ目のご意見にあった、「毎年の数値目標」については、今回の総合戦略2025のそもそもの考え方として、中期的な視点で、今回だと5年間のなかでの取り組みで、5年後のありたい姿を描くような戦略になっています。今後、どのような具体的な取り組みを進めていくかは、まだ不透明な部分がありますので、まずは、この戦略で中期的な目標を掲げたうえで、その後にそれぞれ事業計画を伴って動いていくことになるので、毎年度の目標というものは戦略策定後により具体的な事業を検討していく中で、考えていくべきかもしれません。

(水谷座長)

自治体の戦略の作り方と、企業の経営戦略の作り方は若干違います。企業であれば売り上げを1%増加するのか、200%増加させるのかでアプローチが違い、取り組み方が変わってくるので目標が大事です。社会状況も変わり、自治体も考え方が徐々に変わってきているので、今後ゆっくりかもしれませんが、未来志向の計画策定プロセスに変わっていくものと思われます。

(水谷(幸)委員)

7ページの下から2つ目の「支援制度を活用した子どもの居場所の数」とありますが、「居場所」とは具合的にどのようなものがありますか。

(岩田主任主査)

子どもの居場所というと様々な場所があります。放課後の居場所という意味では、児童センターなども居場所になります。今回、この数値目標を設定した際のひとつのイメージとして、子ども食堂があります。現在、子ども食堂の取り組みが様々な地域で進められており、本市としてもこういった子どもの居場所づくりを支援していきたいと思っています。基準値が2箇所となっていますが、実際に子ども食堂の支援制度を活用しているところが現状2箇所ということです。目標値の8箇所というのは、子ども食堂や子ども食堂以外でも、子どもの居場所づくりに対する支援制度の充実を図りながら、そういった制度を活用した子どもの居場所の数が増えていけば良いなという目標になっています。

この戦略における子どもの居場所というのは、今ご説明させていただいたような、市が用意した支援制度を活用して活動している子ども居場所の数ということでご理解いただけたらと思います。

実際には、それ以外にも、子どもの居場所というのはたくさん考えられます。例えば、子どもたちが通う塾のような場所もそうですし、子どもが安心して居心地がよいと思いながら過ごせる場所が、広い意味での子どもの居場所と言えると思います。

(水谷座長)

目標値が8箇所ということで、具体的な数値なのですが、何か根拠があるのですか。

(岩田主任主査)

清須市は4つの町が合併した市で、小学校区が8つ、中学校区が4つございます。

小学校単位で1つ、中学校区単位で2つずつのように、歩いて通える場所にバランス良くあると望ましいということで、8箇所という設定をしています。

(水谷座長)

非常にわかりやすい根拠をありがとうございます。

(石田委員(代理))

9ページの滞在人口の月別推移のグラフで、本市の滞在人口率を平日と休日と比較しているのですが、休日の滞在人口率が低くなっています。また、説明の4行目に「本市の滞在人口率をみると、平日と比較して休日の滞在人口率が低くなっており、休日に過ごす場所を市外に求める人が多い状況がうかがえます」とありますが、これは名古屋市に隣接しているので遊びに行ってしまう人が多いということでしょうか。それを解消するために10ページ2つ目の○、2行目に「魅力的な商業施設等の充実に向けた検討により、交流人口及び滞在人口の拡大を目指します」とあります。すぐには難しいですが、魅力的な商業施設や飲食店を充実させて市のなかで休日を過ごしていただくようにやってこうということで、そのなかのひとつの指標として、清洲城やあいち朝日遺跡ミュージアム、市外から来ていただいたり、市民にも行っていただき休日を過ごしていただくという考えなのではないでしょうか。

私は県で地方創生を担当していきまして、国のほうの交付金でデジタル田園都市国家構想交付金があり、窓口のとりまとめをやっています。清須市からは中小企業の稼ぐ力創生と稼ぐ力を高めるための観光・産業活性化プロジェクトということで出していただき、今年度も採択されたところです。国の交付金を積極的に活用して、県としてもいろんな取り組みをしていただきたいと思います。また来年度も新たな事業で交付金活用についてもご検討いただければと思います。

(水谷座長)

非常にありがたい話をありがとうございました。1つ目は大変興味深く思っていますがどうでしょうか。清洲城、あいち朝日遺跡ミュージアムは市民に対しても開かれているのでしょうか。

(岩田主任主査)

まず、1つ目の件について、休日に来てもらうことは2つの側面で捉えており、ひとつが魅力的な商業施設が増えることにより人が集まる、もうひとつが観光の取り組みによって、市の主要な観光施設に人が集まるといったところです。その観光の部分の測る指標として、代表的な清洲城とあいち朝日遺跡ミュージアムの入場者数をK P Iとしました。

また、魅力的な商業施設という部分は、この1つ目のK P Iである「企業への立地支援による企業立地件数」の中の一部として含まれるイメージで、企業立地の活動を通じて、将来的に魅力的な店舗が市内にできると良いということになります。

観光施設の活用については、当然、市内の方に向けたものもあります。例えば、市内の小学校の子どもたちに清須市の歴史に触れてもらうきっかけをつくるという形で、清洲城やあいち朝日遺跡ミュージアムに課外授業で来てもらったり、清洲城一帯でイルミネーション事業もやっています。市外からもたくさんいらっしゃると思いますが、市民の人にも普段とは違う清洲城の姿を見てもらいたいということで数年前から取り組んでいるものです。

デジタル田園都市国家構想交付金については、この5年間のプロジェクトを通じて、清須市の「からあげまぶし」という、P Rできる特産品ができたことや、清洲城のイルミネーション等にも交付金を活用させていただきました。ふるさとの館の内装のリニューアルなども行い、訪れる人が増えて売り上げが上がったり、目に見えて効果が出ています。これまでは、観光の分野で交付金を活用した取組を進めており、交付金の活用による事業効果は明らかですので、今後も引き続き、交付金について積極的な活用を検討していきたいと考えています。

(山田委員)

清須市というと山車が出る祭りがあるのですが、祭りに対して市としての取り組みはどのように考えていますか。

また、清須市の花火は愛知県で一番初めに開催される花火ということで知られています。その時は来場者が多く来るのですが、来場者に多く来てもらえるような取り組みはしているのでしょうか。花火の際に山車を展示しておくなどもひとつなのかと思いますが、どのように考えていますか。

(岩田主任主査)

市を代表する祭りがいくつかあり、より魅力的なイベントになるよう、人に集まってもらえるような仕掛けの検討というのは、毎年行っています。ひとつの考え方として、祭りに力を入れてたくさん人に集まってもらうのは効果的なのですが、一方で数値目標としては、来場者数などの数値目標が掲げにくいのです。例えば、清洲城のような施設の場合、入場券の購入数などで正確に人数が把握できるのですが、イベントの来場者数となると正確な数字の把握は非常に困難です。そういった理由から、取り組みとしては非常に大切なことですが、数値目標としては掲げていません。

(秋山副主幹)

岩田の説明にもありましたが、お祭りは市の重要な観光資源なので、市としては盛り上げていきたいと思っています。今回、基本目標としてあるのが休日の滞在人口率です。お祭りというと年に1回なのでそれを盛り上げてKPIに落とし込むというのは馴染まないとも言えます。そういった意味でも、市にある清洲城やあいち朝日遺跡ミュージアムの来場者数は1年間を通じて計上されるので、こちらの数値目標を落とし込みたいと思っています。ただ、当然祭り自体は重要な観光資源と認識しています。

(水谷(幸)委員)

犬山市は城があって山車がありますので、それと同じと思います。お城を見るだけではなく、世界文化遺産になった山車を展示できれば、見にくる人が増えるのではないのでしょうか。

(水谷座長)

まち・ひと・しごと創生総合戦略で考えるとすると、それをいかに日常に落とし込むかというところで、特に住んでいる方に向けた「清須市はこのようなところだ」という誇りや思いを醸成するとともに、観光施設の中でちょっとおしゃれな日用品なども売っていくとよいかもしれません。子育て世代が望むものとして清須市におしゃれな店、行きたい娯楽施設がないというのがアンケート結果に表れているので、それを売るものや売り方を工夫することで、少しでも改善できればよいと思います。

(小川委員)

この戦略は外部に発信するものだと思いますが、それにあたり7ページの満足度46.3%は決して高くないと思います。なぜ46.3%と低い数値なのか教えていただきたいです。11ページの35.6%、21.8%も非常に低い数字なのですが、なぜその数値だったのかを分析していくべきです。そうでないと、ぱっと見た時に子育て支援が十分ではないと受けとめられるのではと危惧しています。

先ほどの、支援制度を活用した子どもの居場所の数のところでも、非常にわかりづらいと感じました。示し方を再考した方がいいと思います。

11ページの35.6%、21.8%のなかには、ひょっとしたらこれを望んでいない人もいるかもしれません。また、「市民の割合【満足度】」という表現がわかりにく

いです。市民の割合なのか、満足度なのかどちらのことを言っているのかがわかりませんでした。

また、他のところが大らかに書いているのに対して、清須市民げんき大学などの部分が細かく具体的に書いてあるので違和感があります。高齢化のことを書くのであれば、元気な老人がどれだけ増えるとかもっと違う書き方なのかなと思います。

(水谷座長)

極めて重要なご指摘をありがとうございました。人口ビジョンでも、清須市から他市に流れる人を食い止めたいという狙いもあるので、これまで出たアンケート調査の根拠となるような、項目、数値とともに、数値目標とK P Iの根拠を出せる部分がたくさんあると思うので、それを記述するとともに、目標設定の理由を一緒にページに記載するのがよいかもしれません。初めて見た人がぱっと見てわかるような表示の仕方が、今あるデータを工夫することでできるのではないかという意見をいただきました。事務局ではどのように考えていますか。

(岩田主任主査)

まず、市民の割合【満足度】がわかりにくいとのご意見でしたが、これはどこかに補足をいれさせていただきたいと思います。【満足度】となっているものは、市が実施している市民満足度調査というアンケート調査の項目からもってきているものに入っています。実際には満足度に関する設問ではないような項目についても、そのアンケート調査から引っ張ってきている項目ですという意味で印がついているというものですが、確かにわかりづらくなってしまっているかもしれません。

(水谷座長)

せっかく調査等でデータがあるので、おそらく事務局の皆さまの頭の中や普段の打合せのなかで議論されているようにお見受けするのですが、それが、見せ方としてもっと工夫ができるとよいというご意見でした。委員の皆さまはいかが思いますか。

石田委員は愛知県のなかでも様々な自治体を見ていると思うので、見せ方、工夫できるようなアドバイスがあればお願いします。

(石田委員(代理))

昨年度、愛知県でも県の総合戦略をつくりましたが、数値目標やK P Iの部分は本当に難しい部分です。

清須市でも数値の設定には苦労されているだろうと思っています。市民の割合【満足度】と書いてあるのは、普通に読むとわかりづらいので、もし修正できるのであれば、市民が見て理解できるように見直しをお願いします。

(水谷座長)

例えば、データでこのような結果になっているから、この施策をやっていこう、このような目標値にしていこうという、これまでのデータからの一連の流れがあればストーリーとしてわかりやすいと思います。子育て世代が清須市に定住

するのではなく市外に出て行ってしまおうという話がありました。理由のひとつが魅力的なお店が少ないことがありました。それを改善するための施策を考えましょうということと、例えば、年間の転出数を目標値もしくはK P Iとして掲げるなどするとよりわかりやすいと思います。

また、8 ページ、10 ページの仕事や観光のところですが、魅力的な店舗、飲食店の数が今どれくらいで、それが、どれくらい増えたのかというような、魅力的というのは主観なので難しいのですが、例えば、レストランを検索するサイトの星いくつの店がいくつあっていくつ増えた等、具体的にしてくにはそのような見方もありなのではと思いますがいかがでしょうか。

(秋山副主幹)

今、いろいろとご指摘をいただいているなかで、確かにアバウトな指標とそうでないものがあるのですが、市として把握することができる数値は限られています。例えば、レストランの星の数が減ったり増えたりは市では把握できない情報です。限られた情報のなかで、なじむような数値目標、もしくはK P Iにした場合として、このような形になったことをご理解いただきたいと思います。ただ、市で把握できるなかで、もし、他によい数値目標があるのであれば検討していきたいと思います。

(水谷座長)

年間で、子育て世帯がどれくらい転出しているかの把握はできていますか。

(岩田主任主査)

人口がトータルでどれくらい出ていったということは把握しているのですが、そのうちの子育て世帯に絞り、どれだけ転出しているというのは、通常は市では集計・把握していない項目となります。

(水谷座長)

以前、転出される方の理由は聞いていましたよね。

(岩田主任主査)

それに近いものが9 ページ「20 歳代後半から 30 歳代が近くの市に転出する理由だということ」のグラフになります。実際に転出された人になぜ転出されたのかを聞き取っているものではないので、ずれは出てくると思いますが、概ね、全体的に清須市のこのような部分が足りないということについては、この結果で大まかに把握はできるかと思います。

(水谷座長)

出生率を上げることと転出する人を抑制することが人口増加には必要ですよ。特に子育て世代の転出数の把握ができるように工夫するとよいのではと思います。

(秋山副主幹)

子育て世帯の転出数そのものの把握はできていませんが、人口ビジョンでもあったように、社会増減のトータルのところで清須市の傾向として30代、40代の人口流出の傾向が強いという結果が出ています。そういったなかで、それと合わせて10歳未満も同様に減っているというところで、子育て世帯が流出しているという想定をしているところです。今後は子育て世帯の流失をできるだけ止めることを人口ビジョンでも必要であるということのをうたっていて、統計結果の分析から予測を立てたうえで、必要な取組を検討した結果となっています。

(名倉委員)

目標値は具体的な数字を見せた方がよいというのは確かにそうだと思います。目標値が「基準値から増加」ということだと、あまりにも具体的ではないと思います。

なぜ清須市から転出していくのかは、だいたい理由として想像がつきます。私も商工会の立場なので、清須市には魅力的な店舗、飲食店がないということは、市民からも会員からも聞いており実感しています。清須市で店舗をしても名古屋市に流れてしまい飲食店も長続きしていないようです。令和5年度を見ても飲食店の閉業が多くあります。事業承継の後継者もないのが現実です。

具体的な数値でないとここに明記できないことはよくわかりますが、例えば、8ページの数値目標の「法人市民税の納税義務者」というのが、適当な目標数値としての項目なのかということも、再度、考えていただいたほうがよいと思います。私は商工会の立場なので、法人市民税と言われれば、法人事業所の市民税を収めた事業所なのかなと思いますが、具体的に数値として2,327とはどのような数値なのでしょう。法人市民税イコール法人事業所の件数であるとかの補足がないと、わかりづらいと思います。もし、魅力的な店舗や飲食店がないことをふまえて目標数値を作るのであれば、具体的な小規模事業者数の増加や法人企業の増加、具体的には飲食店の増加と書いてしまえば、統計とリンクするのかもしれませんが、今、お話があったように、数値が把握しづらいかもしれません。もう少しおおざっぱな数値でもいいと思うのですが、よりわかりやすいものはないでしょうか。

(秋山副主幹)

その件については、法人の事業者数や飲食店数は市として把握が難しいので把握できるものとして、法人市民税の納税義務者数ということで入れています。商工会では市内の事業者数のデータ等は把握されているのでしょうか。

(名倉委員)

商工会の会員であれば把握しています。経済センサスで事業所の統計が国から出ていますが、清須市のなかの事業所数は市では把握していないということでしたので、今お話ししました。

(岩田主任主査)

現行の総合戦略上では、もともと国が行っている経済センサスという統計調査を基にした市内の民営事業所数、その従業員数をそれぞれ数値目標として掲げ

ていたところではありますが、今回、改めて次期総合戦略を作るにあたり検討しましたところ、国の統計調査は5年に1回というスパンでしか行われたいものであり、清須市の総合戦略の5年間のスパンに当てはめたときに非常に使いづらい数字になってしまいます。根拠としては明確ではあるのですが使いづらいものになるので、それに代わるものとして検討したのが、法人市民税の納税義務者数になりました。これはほぼ「清須市内にある法人の数」と同義になります。書き方を「市内の法人数」として、それを何からもってきたのかと問われた時に、「法人市民税の納税義務者数」の値を使っているということがわかるような形になっていると、ぱっと見た人が分かりやすいかもしれませんね。

(水谷座長)

その方が一般の人にわかりやすいと思います。

(岩田主任主査)

そのあたりを意識して記載方法を再度検討させていただきます。

(水谷座長)

最後に、議題1と議題2を含めてご意見はありますか。よろしいでしょうか。それでは、本日の議論をふまえて事務局では素案の修正をお願いします。

これで、本日予定しておりました議事は全て終了しました。それでは、事務局にお返しします。

4 閉会

(林企画部次長兼企画政策課長)

本日は貴重な意見をありがとうございました。次回は8月頃の開催を予定しています。その際には改めてご案内させていただきますので、引き続きよろしくお願いします。

それでは、以上で終了とさせていただきます。本日は長時間にわたりありがとうございました。

問い合わせ先

企画部企画政策課
052-400-2911 (内線3251)

会議の経過を記載して、内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員 水谷 幸一

署名委員 名倉 晃広